



ESGデータ: <https://www.sawaigroup.holdings/sustainability/esg/>  
TCFD提言に基づく情報開示(詳細): <https://www.sawaigroup.holdings/sustainability/tcfd/>

# 環境

## 中計での環境目標の見直し

### CO<sub>2</sub>排出量削減目標を強化

当社グループは2021年4月~2024年3月までを目標とする中期経営計画「START 2024」で掲げた環境目標のうち、CO<sub>2</sub>排出量に関する目標を一部見直しました。今回の見直しでは、政府が掲げる「2050年カーボンニュートラル」に目標レベルを整合させるとともに、「2030年度のCO<sub>2</sub>排出量を、2013年度比46%削減する」という目標に向け、CO<sub>2</sub>排出量削減の取り組みを強化することを目指しました。

本件は、沢井製薬サステナビリティ委員会、グループサステナビリティ委員会、グループ戦略会議、取締役会の審議を経て承認されました。変更のポイントは、下表のとおりです。

### 見直しのポイント

従来	見直し後
●生産数量原単位で、25%削減(2030年度)	●2013年度+αを基準に、総量で46%削減(2030年度) ●ネットゼロ(2050年)

### 気候変動に関わるリスクと機会(対象期間:2021年度~2030年度)

区分	リスクの概要	ビジネス・戦略・財務計画への影響	影響度		当社グループの対応
			1.5°Cシナリオ	4.0°Cシナリオ	
リスク	政策・法規制リスク	●カーボンプライシングによる当社グループの負担が発生 ●GHG排出量の多い原材料サプライヤーへのカーボンプライシング負担分の当社グループ購買価格への転嫁が発生 ●当社グループのGHG排出量削減のために必要な省エネ設備投資負担が発生	中	小	●再生エネルギー導入の検討 ●廃棄物の減少を含む生産効率化の検討・実施
	人口・経済・地政学リスク	●新興国を中心とする人口増加に伴い、食料や飼料などの穀物(でんぷん、シヨ糖、とうもろこし等)の価格上昇が発生し、医薬品の添加剤原料価格上昇が発生	小	中	●購買先の分散 ●代替技術の検討
	物理リスク(急性)	台風・豪雨・洪水等の増加	小	大	●製品在庫周辺への土壌積み上げ ●損害保険によるカバー ●当社グループ及びサプライチェーンにおけるBCPの整備
機会	現状では気候変動により当社グループの事業に影響を及ぼす機会のうち、戦略や財務状況に重要な影響を与えるものは分析・評価の結果、特定されませんでした。				

対象範囲:当社グループ(トラスターマテック及びUpsher-Smithは除く。)

影響度:(大)ビジネス・戦略・財務計画への影響が大きいと評価するもの(概ね60億円以上)、(中)ビジネス・戦略・財務計画への影響が中程度であると評価するもの(概ね30億円以上)、(小)ビジネス・戦略・財務計画への影響が小さいと評価するもの(概ね30億円未満)

## TCFD 提言に基づく情報開示(概要)

### ガバナンス

- グループCOOに気候変動問題に対する責任を割り当て、取締役会がその職務の執行状況を監督
- グループ各社からの代表者メンバーにより構成される「グループサステナビリティ委員会」(委員長:グループCOO)にて年4回、気候変動課題を含むサステナビリティに関する事項を協議・検討。取締役会へ定期的な報告を行うとともに、取締役会からの指示・監督のもと意思決定を行う
- 委員会の下部組織としてグループ各社からのメンバーにより構成される「地球環境チーム」を設置。四半期に1回、委員会に報告
- 想定しているリスクと機会は、下表の通り
- 当社グループの中核企業である沢井製薬においても、代表取締役社長が委員長を務める「サステナビリティ委員会」を設置し、年4回開催

## 戦略

- 短期的には原単位ベースでの排出量削減に取り組む
- 中長期的には、非化石エネルギーの導入検討を含む排出量の削減に取り組む
- 「産業革命前からの全世界平均気温の上昇を2°C未満に抑える」ことが達成される場合を想定した1.5°Cシナリオと、政策や規制に大きな変更がなく現状に近い状況でGHG排出量が増え続けて全世界平均気温が上昇する4°Cシナリオの複数のシナリオにより、当社グループに及ぼす影響を検討

## リスクマネジメント

- 「地球環境チーム」のメンバーを中心に、サプライチェーンの各段階に関係が深い部門又は関連各社の関与と協力を得て、選別・評価・特定
- 評価結果をもとに「グループサステナビリティ委員会」並びに取締役会において検討・審議を経て決定

- 取締役会で、短期的には毎年の事業計画に、中長期的には中計に、適宜組み込み

## 指標と目標

- 以下の指標と目標を設定し、進捗を管理

指標	目標
① CO <sub>2</sub> を含むGHG排出量(Scope1、Scope2)	(単年度) Scope1、Scope2とも前年比少なくとも1%以上の削減 (中期) 2030年度までにCO <sub>2</sub> の排出量(Scope1,2)を総量で2013年度+α比46%削減 (長期) 2050年までにネットゼロ ※ 毎年のScopeごとの実績をコーポレートサイトに開示
② 非化石エネルギーの計画的な導入状況	2030年度目標を達成するために実際の排出量に応じて毎年一定のCO <sub>2</sub> 削減に相当する非化石エネルギーの導入

## Topics 室間差圧の制御で、省エネ運用を実現

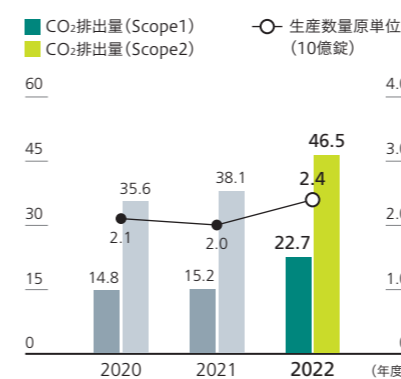
製薬工場では、部屋と部屋の気圧の差(室間差圧)を適切に設定することで、室内に浮遊した粉体を封じ込め、交叉汚染(異なる品目が混ざること)を防止しています。室間差圧の適切な制御が難しいため、従来は休業日も空調機を通常運転していたのですが、各部屋の排気ダクトやインバータなどを適切に調整することで、省エネモードでの運用を可能にしました。



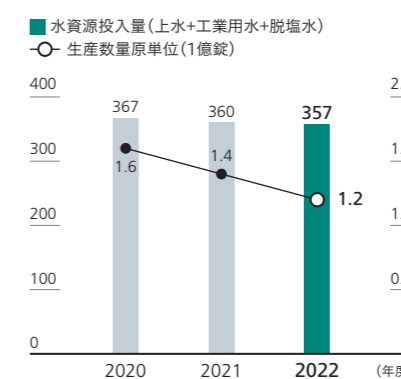
運用方法の見直しで、運転時間の削減に成功した空調機

## 環境データ(国内)

### CO<sub>2</sub>排出量 (kt-CO<sub>2</sub>)



### 水資源投入量 (千m<sup>3</sup>)



### 廃棄物等発生量 (トン)

